



うまこしゆうせい  
馬越裕正議員



挑戦は終わらない  
みんなで挑もう 日本遺産認定

**議員** 日本遺産認定に向けて、鋭意努力してきたが、今回は落選となった。課題の分析と今後のスケジュールをたずねる。

**教育部長** 次回の申請に向けて、文化庁からアドバイスを受けている。具体的には、「石の歴史のさ」らなる深掘り、構成文化財の検討、各島を結ぶストーリーや地域活性化づくりの検討」などである。

これを受けて、6月19日に1市2町の首長と担当者に笠岡に来ていただき協議をして、認定準備会を立ち上げ、今後の取組みについて話し合う場を設ける。

庁内では、まず生涯学習課や商工観光課などでチームを作って取り組んでいく。

**議員** シリアル型の再申請と笠岡市だけの日本遺産申請との関係についてたずねる。

**教育長** 笠岡市だけの日本遺産申請については、このたびの申請でシリアル型が認定されていれば、

次は申請することも考えていた。

最も重要なことは、あと2年の間にどうすれば狭き門を突破して、日本遺産認定を勝ち取ることができ

るかである。単独にこだわらず、

時間と労力を費やし、同時並行で申請しても、石の島申請の足を引っ張ることもなにかねない。したがって、引き続き石の島の申請

に集中すべきと考える。来年度の申請が、もしダメだったとしても、最後の1年にかけていたいと考えている。



おおもとくにみつ  
大本邦光議員

災害種別図記号による  
避難場所表示の標準化を

**議員** 一目でわかりやすい災害種別を明記した避難所表示板設置の必要性をたずねる。

**市長** 一部は老朽化したものがあることから、避難所ごとに調査を行った上で、年次的に災害種別の明記されたものに更新する必要があると考えている。更新等を行うときは、国の基準にのっとり災害種別の明記し、緊急時に避難者の方々に分かりやすい表示にしたい。

**議員** 避難所におけるWiFi、公衆無線、ラインの環境整備についてたずねる。

**危機管理部長** フリーWiFiのスポットは現在、市内13か所にある。防災に資するWiFi環境の整備計画目標により、関係部



青少年のインターネット  
依存を防ぐ支援を

署とも協議を進めながら検討してまいる。

**議員** 今やネット依存も低年齢化が進み、教育現場でも深刻な問題である。本市における小・中学生を取り巻くネット環境の現状と認識をたずねる。

**教育長** ネット依存は、教育委員会としても喫緊の課題の一つとして捉えている。昨年度の調査では、携帯電話の所持率は小学校で約3割、中学校で約5割。また、ネットやコミュニケーションサービス等の利用は、小学生の約5割、中学生の約7割である。本市では深刻な依存症に陥っている児童・生徒の情報は入っていないが、今後実態把握に努めるとともに各校で実施している情報モラル教育の取り組みをさらに推進してまいる。

